

公益社団法人千葉青年会議所

2023年度基本方針

2023 年度理事長予定者

柳原 悠介

基本理念

誰もが活躍する「組織と社会」を作り
誰もが輝く「世界と未来」を目指す

スローガン

彩り

基本方針

1. 組織の拡大と拡充
2. 青年会議所の認知度と理解度の向上
3. 時代に即した発展と成長
4. 青少年健全育成のための体験と経験
5. 千葉の魅力の発信と創造
6. 関係諸団体との連携の進化と深化
7. 他地域との交流から得られる価値観と視点

所信

■ はじめに～青年会議所の存在価値～

千葉というまちを明るい豊かな社会にするべく1960年に創設された千葉青年会議所は、様々な歴史と伝統を紡ぎながら運動を続け、本年度で創立64年となります。この紡いできた年月の潮流の中で、社会情勢や時代背景は目まぐるしく変化し続け、それに伴って我々が目指す「明るい豊かな社会」の在り方も変容しつつあります。青年会議所の存在価値、つまり青年会議所のあるべき姿を考える上では、今この時代に目指すべき「明るい豊かな社会」とは何かという問いと常に向き合い続けることが必要です。

社会をより良い方向に変えていこうとすると、それを変えようとする人や組織も常に変わり続けることを求められます。社会にとって何が良いことで何が悪いことかという価値観自体が、その社会が置かれた状況や直面している課題、そして時代によって大きく変わるからです。「温故知新」という言葉があるように、過去の歴史から学び取れることは数多くあります。過去から学びつつ、その一方で単なる過去の踏襲となることなく、臆せず新たな時代に果敢にチャレンジしていく攻めの姿勢を忘れてはなりません。

現代は、人種・信条・性別などの面で多様性溢れる時代です。こうした多種多様な彩りある時代を向かえた今、千葉青年会議所は、新たな価値観と創造性をもって、今までになかった運動を展開すべき岐路に立っています。我々がこの分岐点で正しい選択をし、市民とともに歩む青年会議所としてアップデートすることができれば、千葉のまちは真の意味で「明るい豊かな社会」に近づいていくのではないのでしょうか。

■ 組織の拡大と充実

青年会議所が千葉のまちをより良くする運動に邁進するためには、まず組織に属するメンバーを一人でも多く増やしマンパワーの増強を図ることが必要です。それに加えて、メンバー一人ひとりが青年会議所運動に対するやりがいを感じられ主体的に活動する意欲が生み出される組織づくりをすることも重要であり、この両輪が成り立って初めて地域により多くを還元できる組織に成長することができます。

メンバーが自身をより大きく成長させることができ、その成長が地域をより良くする糧となるという青年会議所の本質を現役メンバーのみならず未来のメンバーにもしっかりと伝えながら、組織拡大と組織充実の両輪を実現します。

■ 青年会議所の認知度と理解度の向上

青年会議所という団体は、企業や自営業者の方々にはある程度認知されていますし、一般市民でも「青年会議所」という名称に聞き覚えがある方は一定数いると思います。しかし、実際に青年会議所がどういう組織であるか、具体的にどのような活動をしているかなどはあまり理解されていないのが現状です。青年会議所がどれだけ内容的に素晴らしい運動を展開したとしても、組織自体への理解度が低いままでは、青年会議所運動が社会にもたらす波及効果も十分に発揮されません。

市民を巻き込んでともに「明るい豊かな社会」を築き上げるためには、我々青年会議所の理念や具体的運動、そして経験豊かな人材が数多くいることを市民に対して積極的に周知する活動を行い、単に「認知」されるにとどまらず「理解」を得る努力を惜しまないことが必要です。この努力を続けることで、青年会議所運動が社会により良く波及し、青年会議所の理念に呼応するメンバーの拡大につながり更に効果的な運動が可能となるという正のループを構築することができます。

■ 時代に即した発展と成長

青年会議所の本質は、メンバーが発展と成長の機会を得て人として成長し、その成長を地域をより良くするために社会に還元するところにあります。つまり、青年会議所がその使命を全うするためには、まず何よりメンバー一人ひとりが成長できる組織でなければなりません。

現代は多様化が求められる時代であり、また激動の社会情勢の中で価値観そのものが大きく変動する時代でもあります。こうした時代に対応するために、物事の本質を見極め、守るべきものは守りつつも柔軟な発想で抜本的に変化することを恐れずに立ち向かう人材が求められています。

青年会議所がこうした人材を育成する組織として機能し、メンバーが研鑽を積み時代に即した発展と成長を遂げることで、地域をより良くするために社会に還元するという使命を全うできると確信しています。

■ 青少年健全育成のための体験と経験

次世代の中核を担う子どもたちが安心して健やかに成長していける環境がその地域に整っているか。この視点は、地域の未来を考えていく上で何より大切です。青年会議所を始めとする地域をより良くする運動を展開する団体は、時代の潮流を常に感じ取りながら、

地域の未来を託す子どもたちに対して何を与えることができるかを考えなければなりません。

近年は、不安定な社会情勢がきっかけとなり、子どもたち同士の交流の機会や課外活動の機会が激減し、こうした機会を通じて様々な体験をさせ、自他の関わり方や社会性を身に付けさせるという社会機能が低下している時代であるといえます。こうした時代背景から青年会議所の果たすべき役割を考えたとき、今子どもたちに対して最もなすべきことは、子どもたち同士の交流や課外活動を通じて社会性を育むための体験の機会を提供し、学校生活や家庭生活だけでは成し得ない経験をさせることです。

千葉のまちをより良くする運動の中心的存在である千葉青年会議所は、今こういう時代だからこそ必要となる体験を子どもたちに提供できる魅力ある事業を積極的に展開して、次世代の中核を担う子どもたちが安心して健やかに成長していける環境整備に尽力します。

■ 千葉の魅力の発信と創造

千葉市やその近隣自治体のような都市部においては、まちのベッドタウン化が顕著に進行していることもあり、その地域を地元としない市民が増え、その結果人口は増加しているものの多くの市民が千葉のまちの活性化や発展に興味関心を持ちにくくなるという問題に直面しています。

こうした問題を抱える千葉において、それでも市民を巻き込んだ地域活性化を図るためには、まず千葉というまちの歴史的背景や文化といったまちの特有資源について、市民が知り関心を持つことができる機会を創造することが大切です。

また、千葉にはこうした背景や文化に裏打ちされた魅力的なイベントや行事が数多く存在します。青年会議所が行政や自治体などと協力し合いながらその中心に立ち、千葉の魅力を絶えず発信し続けることで、市民一人ひとりに千葉のまちに対する興味関心が根付くことにつながります。そして、それと同時に既存のものにとらわれることなく、新たな視点で千葉のまちを興す運動を創造し続けることで、多様性に満ちた地域活性化を実現します。

■ 関係諸団体との連携の進化と深化

明るく豊かな社会の実現のために青年会議所だけでできることには自ずと限界があります。まちをより良くしようとする情熱を同じくする団体は、地域の関係団体も含め、行政、自治体、民間企業など無数にあり、これらの存在が互いを理解し合い互いに手を携えながら連携していく必要があります。そして、こうして関係諸団体が相互連携を深めて活動することで、地域全体の活動が活発となり、市民全体を巻き込んだ地域活性化につながって

いきます。

こうした関係諸団体の連携を起点とする地域活性化の流れの中で、明るい豊かな社会を目指す団体である青年会議所は、連携の中核的存在として関係諸団体の架け橋を担う役割を果たすべきです。青年会議所が主体となって連携の進化と深化を推進していくことで、青年会議所、関係諸団体そして市民が一体となって取り組む理想的な地域発展が可能となるのです。

■ 他地域との交流から得られる価値観と視点

各地の青年会議所には同じ地域に属するメンバーが集まり、そのメンバー同士で活動します。同じ地域のメンバーで活動することにはもちろん大きなメリットもありますが、ともすれば似通った思考から脱却することができず、俯瞰的に地域の課題を見つめ直して実効性の高い例会・事業を行いにいくことになる事態も起こり得ます。

青年会議所は世界中の国や地域に存在する組織であり、同じ使命を志す仲間が世界中に存在します。そして年間を通じた活動の中で、各国・各地域の仲間と接することのできる機会が数多くあります。青年会議所運動を通じて、こうした機会をメンバーが最大限に活用することで、自身の地域での活動だけでは得ることのできない多様性溢れる価値観と斬新な視点を学び取ることができます。そして、このように学び取った新たな価値観や視点をメンバーが自身の地域に持ち帰り還元することで、地域を明るい豊かな社会とするための糧となります。

■ むすびに

人も組織も、失敗や批判を恐れて既存の枠に収まり、新たなチャレンジを放棄した時点で、その存在価値は色あせ失われていきます。多様性が広く叫ばれ、新たな価値観も生み出される難しい時代であるからこそ、これまでも困難に立ち向かい続けてきた青年会議所の存在価値は、より一層光り輝くことでしょう。

こうした時代を必死で駆け抜けなければならない我々は、ときにそれと逆行する向かい風を肌を感じ、前に進もうとする気持ちに限界を覚えるかもしれません。それでも、自分が駆けてきた行程を振り返り、道を間違っていないことを確認しながら少しずつでも前に進み続けた先にある景色は、今まで見たことがない彩りに満ちているはずです。そして、その彩りに満ちた景色は、走り疲れた体をもう一步前進させるエネルギーとなるはずです。

メンバー一人ひとりが自分なりのやりがいを見つけ、それがモチベーションになり青年会議所運動に関わるエネルギーを生む。そしてそれがひいては自分の成長と地域の発展につながり、さらなるやりがいとなる。青年会議所がこの循環に寄与している事実こそがその存在価値であり、メンバーが時間と労力をかけて活動するに値する組織であることの証

明です。

ともに信じ合い、励まし合いながら、困難な時代への第一歩目を一緒に踏み出しましょう。